

## 令和 7 年度 東京都立小笠原高等学校 学校経営計画

校長 小島 智史

### I 目指す学校像

#### <スクール・ミッション>

「自主と自律」、「感謝と共存」、「礼儀と信頼」を目標とし、個に応じた指導、地域と連携した体験的・文化的な活動、3年間の体系的なキャリア教育といった教育活動を通じて、「世界自然遺産・小笠原諸島」の豊かで貴重な自然の中で育まれた生徒の健やかな成長と、地域の発展に貢献できる人間の育成を目指す。

#### <スクール・ポリシー>

##### ○グラデュエーション・ポリシー

豊かな自然・文化を背景とした望ましい集団活動を展開することにより、規範意識と自律性、道徳性を備え、他者への配慮や思いやりの心を持ったグローバル人材を育成する。

##### ○カリキュラム・ポリシー

- (1) 卒業時に全ての生徒の進路実現を目指す。
- (2) 基礎・基本の定着と言語活動の充実を図り、思考力を育成する。
- (3) 小規模・少人数学級の長所を生かしたきめ細やかな教育活動を実践する。

##### ○アドミッション・ポリシー

- (1) 学習活動に自主的、積極的に取り組む生徒
- (2) 大学等への進学、就職、留学など、自己の進路に対する高い目的意識を持ち、努力する生徒
- (3) 学校生活、部活動、学校行事、地域の活動等に積極的に参加する生徒
- (4) 挨拶、身だしなみ、言葉遣い、時間を厳守する等の学校や社会のルールを守る生徒
- (5) 互いを認め合い、理解し合い、相手の立場に立ってものを考える生徒
- (6) 小笠原の自然を愛し、慈しみ、その素晴らしさを学び伝えようとする生徒

上記の各ミッションに基づき、生徒に対する深い愛情と毅然とした指導で、生徒も教職員も明るく伸び伸びと生気にあふれ「地元の小学生や中学生が憧れる」学校を目指す。

### II 中期的目標と方策

#### (1) 生涯を通じて学ぶ意欲と能力の育成と自己実現できる進路指導を実践する。

毎日の授業を大切にして、習熟度別による授業、年間をとおした補習・講習を計画的に行い、生徒の基礎学力を向上させる。また、ICTを活用した授業や実験・観察等の体験的・問題解決的な学習、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた授業など、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させる授業方法や教材を工夫し、実施する。さらに探究活動を深め、課題研究の内容をより充実させる。さらに、教員相互の授業見学や研究授業を通して、授業力の向上に教員一人一人が取り組む。生徒を生徒会や各委員会活動等様々な教育活動に主体的に参加させるなどしてコミュニケーション能力を高め、自信をもって試験や面接に臨み、身に付けた総合的な力を活用して、一人一人が自分の進路を実現できるようにする。また進路実現のための組織的・計画的取組の実現を目指し、土曜講習の

充実を図る。

- (2) 社会との関わりを意識し、人として成長するための良い習慣を身に付けさせる。

規範意識と他者を尊重し自己を大切にする意識、そして自らの進路を開拓し、社会に貢献しようとする高い志を育成する。豊かな人間性を培い、健全な心身を伸長させるために、生活全般における指導方針や指導方法を全教職員が共通理解のもと、組織的・計画的な指導を行い、基本的な生活習慣と世界に通用するマナーを身に付けさせる。

防災教育をととして、自助・共助といった防災に関する基本的な知識及び理解を基にして生命を守る力、助け合う力、災害時に役に立つ力を身に付けさせ、災害時に地域の一員として率先して行動できる力を育成する。

- (3) 「海外学校間交流推進校」として交流や発表活動等を充実させる。

グローバル化が一層進展する中、これからの時代を生きる生徒には、自己を確立しつつ他者を受容し、多様な価値観を持つ人々と協力・協働しながら課題を解決する力を身に付けさせる必要がある。本校は、令和6年度「海外学校間交流推進校」として姉妹校提携を結んだ、グアム島ジョージ・ワシントン・ハイスクールとの交流も推進し、自ら進んで積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や豊かな国際感覚の醸成、総合的な英語力の育成などに加え、多くの外国の人々と交流する機会を増やし日米の懸け橋となる人材の育成を期す。

- (4) 母校に誇りをもち、人生の目標に向かって努力しようとする力を育成していく。

特別活動の充実を図り学校行事や各部活動の大会等を目標にして行う日々の準備・練習等の実践を重視し、連合運動会、ウィンドサーフィン大会、ロードレース大会などの体育的行事や関連する学校行事や部活動に取り組むことで体力を向上させると共に学校への帰属意識をもたせる。

また、学校に在る時間だけでなく、家庭に在る時間においても栄養・運動・休養の三原則を基に、生活をリズム化させ、健康の保持増進と体力向上を図るとともに日常生活において炊事や掃除等、率先して体を動かすように努めたり、休日は屋外で運動やスポーツで体を動かそうとしたりするなど、活動的な生活を送ることで心地よさを感じることができるよう指導する。

- (5) 開かれた学校、地域から信頼を得る学校づくりを推進する。

生徒・保護者及び地域の視点に立った学校経営を推進するとともに、教育活動の情報発信を充実させることで「学校の見える化」を進める。兄島環境学習等の体験活動を支援し、関係機関との連携を充実させる。小笠原村事業「おが高生未来の夢応援プロジェクト」への参加を推奨する。

- (6) 危機管理を常に行い施設が適切に使用でき教育活動が滞ることを生じさせないようにする。

小笠原という特殊な環境を踏まえ、教員・経営企画室相互の適切な情報交換に努めると共に中部学校経営支援センターと連携を密にし、職務の効率化を図り学校経営の基盤をより強化する。

- (7) 全教職員の働き方改革プランを推進する。

組織的・計画的な仕事の進め方により業務の効率化を徹底し、教職員の「ライフワークバランス」を推奨する。

### Ⅲ 今年度の取組目標と方策

#### 1 教育活動の目標と方策

##### (1) 学習活動

(ア) 各学年とも新学習指導要領に示された、生徒が「何ができるようになるか」を具現化する指導を実践

するため年間授業計画を作成し、週ごとの指導計画で適切な進行管理を推進する。

- (イ)個に応じた指導を充実させ、生徒が自主的に毎日 60 分以上の家庭学習を習慣化できるよう導き、基礎的・基本的な学力の向上を図る
- (ウ)ICT機器を活用した授業を促進するなど、生徒の興味・関心を高める指導内容・指導方法を工夫し、教員相互授業見学及び研究協議を充実させて指導上の課題を共有し、職場の一体感を高める。
- (ウ)生徒一人一台端末やスマートフォンなどの情報端末を活用し、生徒が自ら必要な情報を集めて課題を解決する力を身に付けられるようスタディサプリや Office365 を用いてオンラインによる学習を適宜実施する。
- (エ)総合的な探究の時間を再構築し組織的・計画的に推進を図る。
- (オ)習熟度別授業や少人数授業を活かし、学ぶ喜び、成就感、達成感を体得させ、自主的に学習に取り組む態度を育成する。

## (2)進路指導

- (ア)3年間を見通したキャリア教育を計画的に実施し、各学年の進路ガイダンスを充実させ、生徒の進路実現への意識を高める。
- (イ)遠隔地であることのハンディを補うため、生徒にオンライン学習や各種検定、外部の学力テスト等への受験を促進して生徒の実力を客観的に把握させ、弱点克服に努めさせることをとおして的確な自己理解、望ましい職業観の育成に努める。
- (ウ)進路指導部と学年部との連携を密にし、進路に関わる情報を迅速かつ的確に、生徒や保護者に提供する。
- (エ)HR担任と生徒・保護者との三者面談を実施した結果の情報共有化を図り、生徒・保護者の希望を的確に把握して支援する。
- (オ)小笠原村教育委員会が主管する「おが高生未来の夢応援プロジェクト」への積極的な参加を促し進路実現や自己実現につながる機会を提供する。

## (3)生活指導・安全指導

- (ア)東京都生活指導統一基準を基に、挨拶の励行、ルールを守る等の学校生活における基本的な生活規律を適切に指導し、規範意識と自律心を育む。
- (イ)時間を意識して行動できるようにするために遅刻指導、及び部活動の活動時間については、最終完全下校時刻を意識させる指導を徹底する。
- (ウ)登下校時の交通ルール、特に原動機付自転車及び自転車通学者への道路交通法の周知及び遵守の徹底を図り、事故を未然に防ぐ。
- (エ)学校内の決まりや指導方針を予め明示して生徒・保護者の理解を図り、特別指導基準の明確化と公正な運用により、生徒の問題行動等への対応においては、保護者や関係機関と連携や協力ができるサポート体制を確立し、生徒の健全育成を図る。
- (オ)お互いに思いやる気持ちを醸成し、本校のいじめ防止基本方針を踏まえ、生徒間のいじめ防止、早期発見、早期対応に組織的に取り組む。
- (カ)特別支援教育コーディネーターを中心として、HR担任、養護教諭及びスクールカウンセラー間の相互連携を強化し、組織的に生徒一人一人の心の健康に対応できる相談体制を確立する。
- (キ)体力の向上、健康的な生活習慣の維持等、心と身体の健康づくりに教科・教科外の活動をととして取り組み、生徒の健全育成を図る。

(ク)校内の環境美化を推進し、美化・清掃意識の徹底を図る。

(4)特別活動・部活動

(ア)学校行事を充実させるとともに、生徒一人一人の特性に応じて活動できる場を確保し、成就感や達成感を体得させる。

(イ)効率的な練習計画による活動、生徒の自主性を重視した活動を計画的・継続的に実施し、地域や小中学校、外部と連携した活動を実践する。

(ウ)東京 2020 大会以降も継続していけるような小・中学生とのスポーツ・文化交流を行い、小・中学校との連携を深め、「地元の小学生や中学生が憧れる学校」となることを目指す。

(エ)生徒会や部活動を中心として地域の行事へ積極的に参加し、ESD 活動を推進して環境教育や美化・清掃活動の活発化を図るなどして社会性及び社会に貢献する姿勢を育む。また、地域住民への施設開放や公開講座の開講をととして本校の教育資産の幅広い活用を期する。

(5)募集・広報活動

(ア)地元の中学生・保護者向け進路相談会や関係学校との授業交流、生徒の活動成果報告会、母島保護者・生徒向けのぎんねむ寮の公開及び授業公開、上級学校訪問、授業体験等の取組により、父島・母島双方等での募集・広報活動を実施する。

(イ)学校のホームページは、時を逃さず更新して積極的な情報発信を徹底する。

(ウ)地元の小・中学校への体験授業・説明会、交流事業を計画的に実施する。

(6)学校経営・組織体制

(ア)学校経営計画・分掌組織目標と個人目標の整合性を図り、課題を共有することにより意識を高める。

(イ)企画調整会議で分掌と学年の連携を深め、課題を共有化し、協働体制を強化する。

(ウ)教育公務員としての使命と職責の重さを自覚し、体罰の禁止や汚職等非行防止研修で服務規律の理解を深め、服務事故を未然に防ぐ意識を高める。

(エ)経営参画型経営企画室を目指し、関係部署との連携により、円滑な教育活動を支援する。予算ヒアリングの充実と適正な予算編成及び執行を行う。また、施設設備の定期的な点検を行い、不備な箇所の早期発見、早期対応を心掛ける。

(オ)業務の効率化を進め、会議資料や保護者通知等のペーパーレス化を段階を踏みながら推進する。

IV 重点目標と数値目標（前年度実績）

(1)学校運営

(ア)学校満足度の肯定回答率 95% (93.8%)

(ア)小笠原村「おが高生未来の夢応援プロジェクト」事業参加 15名 (4名)

(イ)教員の相互授業見学 全教員年3回以上 (－)

(ウ)月当たり超過勤務時間が45時間を超える教職員数 0名 (0名)

(2)学習指導

(ア)進路決定率 100% (93%)

(イ)土曜講習等開講講座数 15講座 (13講座)

(ウ)土曜講習等受講者延数 70人 (57人)

(エ)英語検定準2級以上合格者数 10名 (10名)

(3)生活指導

(ア)年間総遅刻回数 100回以下 (161回)

(イ)ルール・規律の遵守率 80%以上 (79%)

(4)特別活動・部活動

(ア)学校行事の満足度 95%以上 (94%)

(イ)生徒部活動満足度 95%以上 (94%)

(5)募集・広報活動

(ア)地元中学校卒業生徒本校入学率 75% (56%)

(イ)「学校だより」の発行回数 年5回 ( 1 回)